

イギリスにおける初等学校の課外ゲーム活動と体育授業の  
ゲーム活動教材に関する史的考察  
——*Syllabus of Physical Exercises for Schools, 1919* 及び  
*Suggestions in regard to Games, 1920* を手がかりに——

A historical study on the extra-curricular activities and the game activities  
for physical education lessons in English elementary schools.

——With references to *The Syllabus of Physical Exercises for Schools, 1919*  
*and Suggestions in regard to games, 1920*——

榊原 浩 晃

Hiroaki SAKAKIBARA

保健体育講座

(平成18年10月2日受理)

**Abstract**

The purpose of this study is to clarify the extra-curricular activities and the game activities for physical education lessons in English Elementary Schools during 1910s, with reference to *the Syllabus of Physical Exercises for Schools, 1919*, and *Suggestions in regard to Games, 1920*. The official syllabus was first issued in 1904. Afterwards, the syllabus was reprinted with slight alterations in 1905, and entirely revised and expanded in 1909. It was based, broadly, on the Swedish system of education exercises, which had been widely adopted on the continent as well as in the British navy and army. This new edition of the syllabus followed generally the arrangement of the 1909 edition, though the important additions and the modifications had been made as a result of the experience gained during 1900s. As far as possible, the formal nature of the lessons had been reduced to a minimum and every effort had been made to render them enjoyable and recreative. It was suggested that not less than half the lesson should be devoted to active free movements, including games and dancing. The "Tables of Exercises" had been remodelled in such a way as to place increased responsibility upon the class teachers and to allow scope for personal initiative, freedom and enterprise. Much progress had indeed been made during 1910s, but much remained to be done. The Board trusted that local education authorities had taken steps to provide the necessary assistance and guidance for class teachers through the appointment of competent persons to organize and supervise physical training. Physical training at schools should form the ground work of healthy exercise and recreation in after life. In conclusion, games, contests, and sports should formed part of the ordinary physical training in schools. The following suggestions were intended to amplify the directions given in *the Syllabus of Physical Exercises for Schools, 1919*, they had been useful in connection with play centres, clubs, and so on. For games and dances suitable for children of any age, some reference had been made to the chapters in the syllabus which dealt with these subjects. The choice and arrangement of the exercises and games had depended to a large extent

upon whether the whole class worked together as a single unit, or was divided into separate groups or teams each working as a smaller unit. Either arrangement had its advantage one another. The arrangement of the class in separate teams presented the following advantages. (1) Each child was able to take a more active part in the games and to obtain more practice in the exercises; the teacher could still directly control the whole, as would be necessary during the first three or four year. (2) Greater variety in the work could be obtained by giving each team a different game or exercise, and changing the teams round at stated intervals. This was a later development and pre-supposes that the games and exercises were for the most part known to the class, and had been carried out without detailed directions from the teacher. A new exercise or games could readily be introduced by teaching it to the class a whole, or to each team in turn. (3) A keen team spirit had been cultivated by arranging competitions between the teams. (4) A sense of responsibility had been implanted in the natural leaders amongst the children by appointing them leaders of the teams. This method of working the class had been termed the "team system".

キーワード： 1920年代イギリス 体育授業 課外ゲーム活動 ゲーム活動教材  
 key words: 1920s in England physical education extra-curricular activities of games games  
 activities for physical education lessons

## 1. はじめに

初等学校の児童のゲーム活動を歴史的に振り返るとき、課外活動としての組織的ゲームと、体育授業におけるゲーム活動の両者が存在していた。前者については、パブリック・スクールのアスレティシズムの影響を受けながら、遅くとも1880年代から世紀末にかけて徐々に初等学校の児童も課外でフットボールやクリケットに興じていた。後者については、体育の授業としていかなるゲーム活動教材の内容を用意すべきであるのかということが当時の懸案であった。こうした学校体育の歴史的経緯のうち、1918年前後の初等学校における体育授業のカリキュラムはJohn E. Kaneらによってその要点がまとめられており、「今やいくつかの路線に沿って、状況はカリキュラムの改革の方へ向いてきた。小学校ではスウェーデン式徒手体操、運動場競技、水泳といくつかの野外競技（設備のある場所では）がカリキュラムの一部となった」と述べている。<sup>1)</sup> 近年はAlan Pennの研究によって、20世紀初頭の体育授業と身体訓練の歴史叙述について、ミリタリズムとの関連も論証されてきているといえる。<sup>2)</sup> しかしながら、*The Sport Raising the Game* (1995)<sup>3)</sup> などの英国政府刊行文書にみるように、体育授業におけるゲーム活動教材は、今日でも重視されてきている。<sup>4)</sup>

本研究は、こうしたゲーム活動の内容論を体育史研究として取り扱ったものである。この場合の20世紀初頭のシラバスに依拠したゲーム活動は、

課外活動としての組織的ゲームとは区別されねばならない。従って、本研究では課外活動としての「組織的ゲーム」と体育授業における「ゲーム活動教材」というように言い分けておくこととする。なお、我が国の『学校体操教授要目』では、「遊戯」となっているが、<sup>5)</sup> 本研究の主要史料の1つである*The Syllabus of Physical Exercises for Schools, 1919*（以下、『1919年のシラバス』と略す）はそれ以前の1909年版から一挙にゲーム活動教材を充実させて配列している。<sup>6)</sup> 『1919年のシラバス』においては、体育授業では形式的な性格はできる限りなくし、楽しくレクリエーション的な性格が強調された。<sup>7)</sup> ゲーム活動やダンスに体育授業の教材としての価値を見出していたといえる。シラバスの内容をみる限り学年を経るに従って、ゲーム活動、特にボール・ゲームとか、チーム・ゲームに重点が置かれてくる傾向も確認される。さらに、ゲーム活動教材の重要性やその内容を補完的に説明するために、教育院（Board of Education）は1920年に*Suggestions in regard to Games, 1920*（以下、『サジェスション（1920年）』と略す）<sup>8)</sup>を発行している。これに収録されているゲーム活動教材の内容と約13万部の販売部数の実績から、<sup>9)</sup> 1920年代前後の時代が最もゲーム活動教材について注目されていた時代として位置づけることができる。本研究では、ゲーム活動がなぜシラバスに採用されたのか、その内容はどのような内容を有していたのか？本研究では、そのため

の資料整理及びその要約を試み、資料解釈を加味しようとする。

本研究の経過の中で、『1919年のシラバス』は大正10年(1921年)に山本勘助氏によって『学校における身体修練』<sup>10)</sup>と題する書物として日本語に翻訳されていることを知り得た。山本勘助は、文部省学校衛生課に勤務し、後に東京市視学になっていた人物であった。同翻訳書は、『体育・スポーツ書解題』でも紹介されている。<sup>11)</sup> 英語のGamesの日本語の訳語として翻訳書では「遊戯」があげられているが、イギリス体育史の研究としてはそのまま受け入れがたい感がある。むしろ、ゲーム活動教材が課外活動としての組織的ゲームと関連を有しながらボール・ゲームを中心に多人数で実施されていたことから、Gamesの原語をゲーム活動と訳出しておくこととする。

## 2. その背景と1920年代に至るまで

20世紀に入ってから、初等学校の課外ゲーム活動は徐々に法制化してくる。教育院もパブリック・スクールで行われていた課外ゲーム活動を初等学校の児童にも教授する方法を模索し始めたといっよい。『1906年の教育規則(*The Code of Minutes for Public Elementary Schools*, 1906.)』は、児童が学校にいる時間を課外ゲーム活動に充当してよいことが認められた。<sup>12)</sup> これはフットボールやクリケットなどの組織的ゲームに関することであり、しばしば水曜日の午後か土曜日に実施されたものであった。また、イブニング・プレーセンター(evening play centers)でも実施された。同年、これらのゲーム活動や体育授業を国の行政機関が掌握する機構が再編され、教育院に医務局(Medical Department)が設置された。<sup>13)</sup>

教育院の医務局は、学校での健康診断や学校給食、学校医務官の配置などの業務を進める一方で、体育授業の内容精選と課外ゲーム活動の実態把握にも乗り出している。<sup>14)</sup> このため、体育関係の視学官が8名任命された。したがって、体育授業の内容や課外ゲーム活動にも医務局による行政的措置が開かれたことになる。主任医務官(Chief Medical Officer)の報告書は、体育授業や課外ゲーム活動の推移の事情をよく伝えている。1910年代に課外ゲーム活動を実施するためには場所や指導者の確保が施策として先決であったが、このことがかなえられていた地方は問題なく実施され、やがて学校対抗(school matches)に発展していくのである。

課外ゲーム活動実施のための運動場の整備は、

1912年に設置された運動場部局委員会(Departmental Committee on Playgrounds)による調査と勧告を経て、<sup>15)</sup> 1914年に運動場設置基準が改められ、<sup>16)</sup> 課外ゲーム活動実施のための必要条件として運動場の整備やその拡充が可能となったのである。といっても、早期に課外ゲーム活動実施場所を確保することは困難であり、学校時間終了後の夕方から夜間に初等学校の児童のみを対象としてゲーム活動その他のプレーを実施するための措置として1917年にイブニング・プレーセンターの事業が法制化された。<sup>17)</sup> この実施のために地方教育当局がイブニング・プレーセンターを開設することが義務づけられ、そのために国庫から補助金が支給されることも決定された。<sup>18)</sup>

これらが体育授業におけるゲーム活動教材の背景として考えられることである。そして、このことが『1919年のシラバス』にみるゲーム重視の観点に結びついている。つまり、課外活動としての組織的ゲームが体育授業におけるゲーム活動教材の採択に関連しているという論証が可能である。『1919年のシラバス』は体育授業の時案(一時間の体育授業案)としてその内容を例示した運動の表(The Table of Exercises)について、72枚もの表を収録している。<sup>19)</sup> 当時の平均的な体育授業は1週間に数回の実施で、1回あたり20~30分程度の時間であった。その1回の授業展開のうち、準備運動や各種の身体操作を含めた体操がまず実施され、授業の半分以上はゲーム活動教材を用いることが例示されている。したがって、体育授業には必ずゲーム活動の時間を設けることが要請されていたことに気づくのである。ゲーム活動の教材が体育授業には不可欠になったとみてよいであろう。我々はその理由を歴史的に考察しなければならない。『1919年のシラバス』には、体育授業に興味・関心をもたせることが随所に述べられているが、ゲーム活動教材の採択理由と教材の配列とその内容を吟味することはそのことへの論証に役立つものである。ゲーム活動の教材がなぜ重視されたのか、その内容はどのようなものであったのかを知ろうとするとき、『1919年のシラバス』の発刊に伴ってその翌年の1920年に発行されていたゲーム活動に関する『サジェスション(1920年)』も重要な資料となる。

## 3. 『1919年のシラバス』にみるジョージ・ニューマンの予備的ノート

『1919年のシラバス』の予備的ノートは、1907年の教育院医務局の設置に合わせて、主任医務官

に就任したジョージ・ニューマン(Newman, Sir George [1870-1948])<sup>20)</sup>による執筆箇所である。シラバス改訂に至る経過の記述ノートがニューマンによる叙述でなされている点からみて、興味をそそるものである。以下はその要旨である。

① 教育院は、1905年に出版した『教師の考慮すべき事項』において教育全体の一部として身体訓練の価値を力説している。その後長年の経験により、教育全体と身体訓練との緊密な結びつきの必要性が明らかになり、新たに身体訓練のシラバスを制定し、これを改訂する際には教育院は単なる学校における身体訓練の制度の改善にとどまらず、国民全体の健康に及ぼす価値についてもさらに考慮した。<sup>21)</sup>

② 過去10年ないし12年間において、児童及び青少年の健康に関して国家が関与することが著しく進展したことを認めることができる。すなわち、1906年及び1914年の教育法(学校給食)では、公立初等学校の児童は1人たりとも、食事が与えられず栄養失調のために教育を受けることができない児童をなくすことを期待したものであった。また、1907年の教育行政措置法は、地方教育当局によって職業学校、職業学級、プレーセンター、公立初等学校児童に対してその他のレクリエーション施設を設置することを奨励し、児童の身体検査の実施義務を課したのであった。合わせて、教育院が認可することによって、児童の健康及び身体発育に資するべき設備を設置することを奨励した。なお、1918年の教育法は、児童の身体検査及びその処理に関する地方教育当局の機能と義務を拡張した。その他に、(a)特に、補習学校在学の青少年に対して休日もしくは学校キャンプ、(b)身体訓練のためのセンターや設備、プレーイング・フィールド、水泳プール、(c)日中・夜間における社会的訓練・身体訓練のための他の施設を補充支援する機能を与えたのであった。いずれも、国家が国民の健康保持・増進に対して大いに期待することになったといえる。<sup>22)</sup>

③ このように身体訓練の位置づけ、範囲、概念が拡大されたと共に、これまで使用されていた学校訓練(School Drill)の用語の下に実施されてきた身体訓練は、徐々にではあるがその意義をまったく異なるものへと変化させられるに至ったのである。今や効果的な教育制度は、健康な身体、鋭敏な知性、健全な性格の3つが歩調を合わせて展開されることが奨励されるべきことであると一般に認められている。この3つは相互に関連しており身体が健康でなければ精神や道徳も著しく阻害

され、そのことを避けねばならないことは今更言うべきことでもない。一言でこれを語り尽くそうとすれば、健全なる身体発育は、知的発達上欠くことのできない要素なのである。<sup>23)</sup>

④ しかしながら、適切な栄養摂取、有効な身体検査、及びその処置と衛生的環境は十分であったとしても、このことのみでは決して身体は健全なものにはならないのである。その点では、大いに身体運動の力に頼らざるを得ないのである。その運動の形式は、数多く多様であるものの、一時的な流行やその場限りでいかに指導するかの吟味のない指導がなされ、雑然とした運動方法は、健全な身体発育と先天的あるいは後天的欠陥の矯正に対しては、不可欠な科学的体操に比べてそれにならうものはみられない。多少の差はあるものの、限定された場所において、窮屈な姿勢で縮こめられた空気の中で工場での労働をしなければならない今日においては、特にそのようなのである。これと同時に身体訓練は各年齢とその能力とに応じてそれに適したものにすべきであって、なお、自由で精神の慰みになり、元気回復力の要素を含むものでなければならない。<sup>24)</sup>

⑤ はじめて身体訓練のシラバスが刊行されたのは1904年のことであった。これは教育院及びスコットランドの教育院より任命された委員会報告に基づいたものであった。翌年1905年に多少修正され、1909年に至って全くの大部分が改訂された。これは主として当時、大陸の諸国及びイギリス陸海軍で採用されたスウェーデン体操に基づくものであった。<sup>25)</sup>

⑥ 今回新たに上梓した『1919年のシラバス』は、1909年版のシラバスの構成に従っている。それは、平和な時期であっても戦争中であっても、体育館の中でであっても交戦地帯においても、過去10年間経験の結果として相当の増補及び修正を加え、合わせて全国各地の実務家の意見を斟酌して作成したものである。『1919年のシラバス』においては、形式的な内容はできる限り排除し、体操を愉快に行い、レクリエーション的に実施できるように工夫している。すなわち、時間の半数以上をゲーム活動やダンスを含む活発で教師の命令の少ない運動に時間をかけるように注意を与えている。したがって、運動に関して作成した表は実際の指導の任務にあたる教師の責任を重くし、教師の自由、工夫の余地を与えるように改められている。しかし、ある章においては、特に7歳以下の幼児の身体訓練について記述している。<sup>26)</sup>

⑦ 組織的な身体訓練によって適切に発育発達を

もたらず施設・設備は未だ不十分であるということは過言ではない。むろん過去10年間には多大な進歩を見せているが、なお為すべく余地を残している。教育院においては、地方教育当局が身体訓練の組織者及び監督者に有能な人材を任命し、それによって実際に指導している教師を指導援助するために必要な努力を惜しむべきではないと考えている。また学校や広大な運動場における指導が、時間、準備、設備の不足によって阻害されないことを望んでいる。<sup>27)</sup>

⑧ 教育院は、運動による一時的な身体並びに精神の発育発達のみならず、将来に向かって価値あるレクリエーションの習慣形成を奨励する見地より、各個人の円満な体力の発達を切望してやまない。学校における身体訓練は、将来の生活における健全な運動及びレクリエーションの基礎を為すものなのである。このため、適宜クラスやそれぞれの児童に応用することに比べて、一定の動作の反復を機械的に行うことでは、このシラバスの掲げた身体訓練の方法とその趣旨を理解したことにはならない。したがって、このシラバスにある運動を実施するためには、注意と努力が必要である。各年齢や異なる身体能力や知的能力に応じて、その程度を漸進して配列しなければならない。事実上、その目的はどの程度まで達成されるかを確かめるために教師は体操やゲーム活動においてそれぞれの運動の動作が正しく行われているかどうか、特に児童の愉快で歓喜の声が十分溢れているかを観察するために適切な方法を見つけなければならない。体操の指導がうまくいっているかどうかは、他の教科と同様であるが、その究極の成果は教師自身の能力を知ることになる。すなわち、児童が活発で熱心に運動しているかということが大切であり、科学的あるいは合理的であるといっても、児童がそうでなければ、その目的において失敗であるというほかないのである。<sup>28)</sup>

⑨ 要するに、教育院は身体発育は国民の幸福及びその将来に不可欠な事柄であって、国家の最重要事項であると考えられる。すなわち、1. 祖先は健全であったに相違ないこと。2. 児童は注意深く養護されなければならないこと。3. 衛生上の原則を守らなければならないこと。4. 栄養摂取は十分でなければならないこと。5. 環境は適切でなければならないこと。これらの条件を満たさなければ相応の成果をあげることはいできない。これらの5つの条件を欠いては最終的な目的を達成することはできない。教育院制定のシラバスによって、運動を実施すればあらゆる疾病は治るな

どと主張する人はいないことは当然であるが、これらの体操は堅実な原理に基づいたものとして、これを正しくかつ忠実に採用し、正確に適用し、合理的に理解すれば、改善すべき体格や国民の健康には大いに成果が得られることを信じて疑わない。<sup>29)</sup>

#### 4. 『サジェスション (1920年)』におけるゲーム活動教材の選択とチーム・システムの実際の応用

ゲーム、競技そして、スポーツはあらゆる学校における幅広い身体教育(physical education)の一要素とならなければならないといい、<sup>30)</sup> 以下のような2つの事項が説明されている。それは、(1) ゲーム活動教材の選択(arrangement)及び(2) チーム・システムの実際の応用ということであった。『サジェスション (1920年)』は、『1919年のシラバス』の中に示されている方向性を詳細に述べようと意図したものである。それらはまた、プレイセンターや青少年クラブなどで採用されている事項である。

##### (1) ゲーム活動教材の選択(Arrangement)

形式的な身体運動の明確な実施計画というものを立案することは可能であるが、よりレクリエーション的な運動については計画を容易に立てられそうもない。環境や機会が非常に幅広いので、教師にとってはそのような運動を選択したり調整したりするには教師自身が決定する必要があるという。それは、おそらく授業時間のおよそ半分を占めなければならない。授業の重要な部分の適切なプログラムを形成するために教師を支援するために、以下のような一般的な方向性が示されていたのである。<sup>31)</sup>

どのような年齢の児童にとっても適したゲーム活動やダンスはこれらの問題が取り扱われているシラバスの章の中で言及されねばならない。幅広い運動には、行進、ランニング、跳躍、あるいは同じような種類の運動が含まれているが、それらの運動がより鮮明な成果をもたらすように、表の中では確固たる位置づけがなされている。<sup>32)</sup> それぞれの名称が、一度に、つまり児童の年齢を熟慮した表の中に表れている。<sup>33)</sup> 生き生きとして、多様で、興味あふれる活動を維持するよう、たゆまぬ努力がなされなければならない。1回の授業で、ゲーム活動が取り上げられてもよいだろうし、次の授業では跳躍や他の運動が教えられ、実施され

てもよいだろう。<sup>34)</sup> 次の機会には、ダンス、行進、スキップなど、そして、次にはスポーツの競技会がアレンジされてもよいだろう。その中には、競走や跳躍、その他の運動競技でお互い張り合っただけでチームが競争することが含まれている。このようにその内容は、漠然と多様なものになっている可能性があるのである。ゲーム活動や運動の選択は、大部分はクラス全体が単一の集団として活動しているが、小集団としてそれぞれ活動するそれぞれのグループやチームに分割されているかどうかにかかっている。どちらのやり方(arrangement)も利点を持っている。年少の児童は、普通はまとまっていて当然である。そして、年長の児童は、授業としてなされるいくつかの運動をより簡単に教えられている。<sup>35)</sup> それぞれのチームに分けて授業を取り持つことは、以下のような利点がある。

① それぞれの児童は、ゲーム活動において、より活動的に役割を果たすことができる。そして、運動の中でより多くの経験(practice)を得ることができる。教師は、最初の3年あるいは4年もの間、必要とされてきたときに、全体を直接指示してもよいであろう。

② それぞれのチームに異なるゲーム活動や運動を与えることで、活動が大いに多様化するし、一定の時間間隔の中でチームを活発に変化させることはできる。このことは、ゲーム活動や運動が授業にとって大部分理解されるということに後に発展していくし、その必要条件なのである。そして、教師からの詳しい方向づけがなくとも、ゲーム活動や運動が実施できるのである。新しい運動やゲーム活動は、全体として、あるいは代わる代わるチームに授業でそれを指導することによって、容易に導入できるのである。

③ 熱烈なチーム・スピリットは、チーム間での競争の場をアレンジすることによって、醸成されるものであるかもしれない。

④ 責任の意味は、児童をチーム・リーダーに任命することによって、児童の中の持ち前のリーダー資質を植え付けられるかもしれない。こうした授業効果を上げる方法はチーム・システムと命名されてもよいであろう。<sup>36)</sup>

## (2) チーム・システムの実際の応用

チームの数は、クラスの数、利用可能なスペース、その他によって変化する。しかし、一般的に1クラス40人が4チームに分割するのが最も適している。それぞれのチームは、番号あるいは名称が与えられるべきである。2つのチームはとき

には、ある目的では合同してもかまわない。チーム・リーダー（または予備の次席リーダー）がそれぞれのチームで選ばれる。リーダーがいて授業が行われるシステムは、これ以前に実際には用いられなかった。これが導入されたときにはチームは教師の直接の命令の下で活動するのが当然のことであった。しかし、およそ12歳のチームのリーダーは、最初はチームのそれぞれの児童から注目されるようにし、個々の運動を指導する位置にリーダーがいるようにして、簡単な運動のときにチームの指揮をとってもよい。<sup>37)</sup>

たとえば、跳躍の運動を行うためにチームに整列するよう教師が指示を出したら、それぞれのリーダーが、割り当てられている場所に走り自分のチームに注意するように呼びかける。第1(第2, 等)チーム、ここに並びなさいと。それから、そのチームは走って、彼の左側に一列で集まってくるのである。徐々にチーム・リーダーは、ある運動のために命令を出すことが許されてもよいだろう。<sup>38)</sup> 跳躍運動の場合は、まず第1に準備、行け、次行けなどである。リーダーによって命令される運動は、何であったとしても、もちろん、授業に親しみがもてるものである。リーダーは指示に誤りが起きそうとき、教師がメモを与えることが許されてもよいのであるが、ある運動を教えることを一任されるべきではない。チームの扱い方や命令の仕方について、リーダーに教師がいくつか指示したり、ガイダンスしたりすることは必要なことなのである。そして、もし、教師が追加的な実践のために、時折、リーダーらを集められれば、それらに役立つものになるだろう。授業が始まる前、チーム・リーダーは、一時的な活動の運動の中で、チームが行うことが何であるかということやそれらはどのように命令を受けているかということの情報が与えられなければならない。利用可能なスペースが、まあ2週間程度のプログラムで、跳躍時の目印があり、多くの器具が明確に配置され、組織的な計画が立案されれば、大いに問題が解決されるであろう。授業から授業へと、あるいは授業中にはっきりと命令することを中心としてチームが変化することで、すべての児童はさまざまな運動の練習法を獲得することができるのである。チームが形成されてまもなく、必要な器具が配置され跳躍などの目印をつけることはリーダーの義務である。彼らはまず、最初にできるだけ望ましい例示をしようと努め運動を実施しなければならない。

教師が、気をつけ休めという姿勢で静止しなけ

ればならない「止め」という命令を下したとき、すべての児童はただちに向きを変え、器具から離れて、集合の命令に従って、リーダーは行動するのである。競技的なチーム・ゲームにおいて、リーダーはチームのキャプテンになる。そのシステムは、特にプレーセーターやクラブに適したものである。<sup>39)</sup>

当然のごとく組織的ゲームを通して得られるかもしれない身体訓練と精神的訓練は、非常に貴重なものである。児童が仲間と競争したいというありのままの欲求は、そうした訓練の一部として大いに活用されるべきである。教師たちは以下のことを心に留めておかなければならない。競争することの教育的価値は、正しい精神を涵養することにあるし、あらゆる状況の中で児童に奮闘せよ、正々堂々とふるまえ、そして、そのためにプレーせよということをお教えることにある。<sup>40)</sup>

競争を過度に働かせたり、一面的な発達に導いたりするものではないということをお慮ししなければならない。どのようなものであれ、特徴ある活動に特殊化することよりも全面的な競技能力の向上がねらいとされるべきであり、競争は参加するすべての児童の能力の範囲内で適宜維持されなくてはならない。<sup>41)</sup>

妥当な程度の技能が獲得されないとしたら（そして、このことは注意深く指導することを意味する）、ゲーム活動や競技会は、児童の関心を維持するには継続していかないであろう。いかに多くの関心や価値が多くある単純なチーム・ゲームの中にあるのかということをししばしば、実感していないのである。たとえば、彼らが実際の技能でプレーする際のキャプテン・ボールのようなものの場合である。異なる年齢の児童にとって十分な計画がなされるとしたら、これらの単純なゲームは、認可されているフットボール、クリケット、ホッケーなどとは別に必要とされなければならない。それゆえ、以下のような状況は、チームの競技の実施の基準となっている。<sup>42)</sup>

- ① ゲームや競技のイベントは、可能な限り幅広い活動の範囲を当然含んだものである。そして、そのように調整されるものは、一方でなければもう一方というように、それぞれの児童にとって成功の機会が公正に確保されてよいであろう。
- ② すべてのクラスは、いずれにしても競技しなければならない。競技者たちは、可能な限り試合をしなければならない。
- ③ 個人ではなくチームが競争の単位としてみなされる。それぞれの児童は、あらゆることで自己

のゲーム活動で公正にふるまうのかどうか、つまり跳躍や競走においてそれぞれ個人の役割を果しているかどうか、あるいは自己のためではなく、チームのために、あるいはチームの名誉のために活動するのである。あらゆることを行うよう自覚することを学ばなければならない。それゆえ、個々の児童にとって、何が何でも勝利することはチームのために1点を得点することなのである。

④ すべての種目は、同様に得点する価値を持っている。

⑤ それぞれのチームの得点は、守らなければならない。決められた時間が終了するときに、勝利したチームが宣言されなければならない。勝利したチームは、小さなトロフィーなど、たとえば優勝旗のようなものが次の競技が終了するまで維持するように与えられてもよい。個人賞は与えられない。<sup>43)</sup>

## 5. 『1919年のシラバス』及び『サジェスション(1920年)』にみるゲーム活動の教材内容

『1919年のシラバス』では、教師あるいは指導者は、一般によく知られているゲーム活動の内容以外のもので室内外で実施できる多種多様のゲーム活動が考案されていることを知らなければならないといい、年齢、身体的な能力、体格から、年齢期をおおよそ3つに区分して、ゲーム活動の内容を配列している。<sup>44)</sup>

5歳から7歳は、ゲーム活動の内容から模倣するものあるいは、反復することに興味を持つような内容で、駆け足や跳躍などの簡易なゲーム活動にも児童は興味を示すものである。ただし、ルールが複雑にならないように配慮する必要があるという。<sup>45)</sup> 興味を持たせるという教材選定の観点からシラバスへの掲載理由の一端であるとしたら、これらのゲーム活動は、日本の場合では大正2年公布の『学校体操教授要目』にみる「遊戯」の意味があてはまるであろう。

『1919年のシラバス』にみるように、8歳から10歳のゲーム活動教材の配列では、相手に対して敵対したり、競争の精神が含まれたゲーム活動を児童は一層好むようになるという。そして、児童は自己のために努力するのではなく、団体の一員として全体としての成功に努め、共同したり社会的義務を負うことに気づき始めるという。<sup>46)</sup> これらのことがかなえられ、初等学校におけるアスレティズムの浸透に向けて、ゲーム活動の教材にも期待が込められている。従って、このことは資料として判読する際に重視しなければならない観

点である。

11歳以上ともなると、そのゲーム活動教材のねらいは、さらに児童に対して個人が秀でるために努力することはもちろんのこと、社会的・団体的な奉仕の精神が益々強く現れることを期待しているのである。ただし、初等学校の場合、フットボールやクリケットのみが価値あるゲーム活動ではないことを強く主張している。<sup>47)</sup> 施設が十分であれば一般に認められているようなゲーム活動が最も適当なものであるが、現状ではそうではないのでゲーム活動教材の配列やそうした児童向けのアレンジが必要であったのである。特に女兒には、室内で実施できるネットボールなどの球技が推奨されている。<sup>48)</sup> 運動に興味を示しており堪能でその機会も多い児童には問題はないが、児童数や施設の狭さを克服するゲーム活動教材が模索されていたといえる。さらに、上級のプレーヤー向きのゲーム活動教材も用意されている。<sup>49)</sup>

このように年齢ごとの配列とともに、施設の広さや児童の活動量、運動の活発さなどの観点を検討され、それぞれの年齢層ごとに、「[第1欄(I)] 場所に制限のある場合のゲーム活動」「[第2欄(II)] 場所に制限がない場合のゲーム活動」「[第3欄(III)] 寒い天候のときに実施されるゲーム活動」「[第4欄(IV)] 床上で身体の姿勢を変化させなくても可能なゲーム活動」「[第5欄(V)] 活動量の少ないゲーム活動」という5つのカテゴリーが用意され、それぞれのカテゴリーの意味する事柄の説明がなされている。<sup>50)</sup>

「[第1欄(I)] 場所に制限のある場合のゲーム活動」では、活発な運動を行いつつも、数個の学級が運動場に存在する場合に、都合よく実施可能なゲーム活動を集めているという。<sup>51)</sup> こうしたゲーム活動によって時間を浪費するのではなくそれぞれの学級において活発な運動を行うことができるというものである。校内の運動場の狭さという問題が解決されない現状から用意されたゲーム活動であろう。

「[第2欄(II)] 場所に制限がない場合のゲーム活動」では形式的でなく活動量も多いゲーム活動を集めている。それらは、心身の発育発達上からみても効果が大きいものであるといい、ゲーム活動が活気あるものになるかどうかは児童が着手する状態や熟練度などにかかっているという。児童がよく教師の呼笛に従い、目的あるゲーム活動を行う能力がある場合にのみ実施してよいものとされている。<sup>52)</sup>

「[第3欄(III)] 寒い天候のときに実施される

ゲーム活動」では気候が寒冷な時、児童の身体を暖めるために活動の絶えない元気な運動を求めるときに行うという。また、通風不良の教室に長時間いて活動が乏しくなる児童を運動場で活気づける場合に適しているゲーム活動であるという。<sup>53)</sup>

「[第4欄(IV)] 床上で身体の姿勢を変化させなくても可能なゲーム活動」は、座っている姿勢からあまり動かない運動のゲーム活動である。活動量が多いゲーム活動を経験したことのない児童や時間を守らず秩序を乱す恐れのあるような児童を擁している学級、あるいは、学校で一斉に多数の児童に運動を行わせるのに適しているゲーム活動で、室内でおこなうものである。<sup>54)</sup>

「[第5欄(V)] 活動量の少ないゲーム活動」とは、短時間に敏速にゲーム活動に着手することを要する体育授業において正規に用いるには不十分であり、活動的なものではないゲーム活動である。これらは学校やイブニング・プレーセンターにおいて過度の活動を避けようとするときや、夏場の激しい運動の合間に用いるのに適しているゲーム活動教材であるという。<sup>55)</sup>

したがって、第1欄(I)から第3欄(III)に掲げられているゲーム活動が教材としてその活用を勧められていた。第4欄(IV)は、教室向けのゲーム活動、第5欄(V)は、体育授業ではなく、イブニング・プレーセンターなどで副次的に活用するゲーム活動であると述べられているからである。これらのゲーム活動教材の内容を詳細に解説したゲーム活動に関する『サジェスション(1920年)』の中では、この第2欄(II)のゲーム活動を数多く取り上げ、詳説している。これらの内容の多くはボール・ゲームであって、一般の正規の組織的ゲームを簡易化したものである。こうしたゲーム活動教材は、将来的には正規の組織的ゲームへと児童を導くことも想定されていたのであろう。(表1.～表6.を参照。)

## 5. まとめにかえて

『1919年のシラバス』においては、体育授業では形式的な性格はできる限りなくし、楽しくレクリエーション的な性格が強調された。ゲーム活動やダンスに体育授業の教材としての価値を見出していたといえる。『1919年のシラバス』にみるゲーム重視の背景は、体育授業におけるゲーム活動教材の採択が、課外活動としての組織的ゲームに関連していたということである。ゲーム活動教材の取扱いはシラバスの文言では教師による選択の余地が残されていたが、毎回授業時間の半分以上の

時間をゲーム活動に充当することが一般的な現状であった。ゲーム活動教材の採択理由は、アスレティシズムとしての組織的ゲームの価値観とも一致をみていた。すなわち、ゲーム活動の教材化の基本的な考え方は、フットボールやクリケットなどを簡略化したゲーム活動の内容であって、その活動が個人ではなくチームが競争の単位としてみなされていた。それぞれの児童は、あらゆることでゲーム活動で公正にふるまうのかどうか、つまり跳躍や競走においてそれぞれ個人の役割を果しているのかどうか、個人のためではなく、チームのために、あるいはチームの名誉のために活動しているのかどうか問われていた。初等学校の児童にゲーム活動教材によって、こうしたことの自覚を求めていたのである。このような考え方は、彼ら児童にとって初等学校あるいは初等学校卒業後の公立中等学校におけるアスレティシズムに結びつくものであったといえる。

#### 【文 献 (References)】

- 1) ジョン・ケーン編著, 村山輝志他訳『学校体育カリキュラムの発展』不昧堂出版 1982年 P.29. <John E Kane *et al.*, *Curriculum Development in Physical Education*, 1976.>
- 2) Alan Penn, *Tageting Schools—Drill, Militarism and Imperialism* — London, 1999.
- 3) Gt.Brit., Department of National Heritage, *Sport Raising the Game*, London, 1995.
- 4) 鈴木秀人「英国政府刊行文書『Sport Raising the Game(1995)』に関する考察 (I) — ナショナル・カリキュラム (体育) に見られる『ゲーム』重視の方向を支える論理の検討を中心に—」鹿兒島大学教育学部研究紀要教育科学編 49巻 1998年 PP.67-81.
- 5) 文部省 『文部省訓令 学校體操教授要目』東京：實文館蔵版 大正2年 PP.26-27.
- 6) Gt.Brit., Board of Education, *Syllabus of Physical Exercises for Schools, 1919*, HMSO :London PP.84-98.
- 7) *Ibid.*, P. 4 .
- 8) Gt.Brit., Board of Education, *Suggestion in regard to Games*, 1920, HMSO: London.
- 9) Gt.Brit., Board of Education, *Annual Report of the Chief Medical Officers for 1920, 1921* HMSO: London. P.156.
- 10) 英國文部省蔵版, 山本勘助訳『學校に於ける身体修練』 同文館, 大正10年
- 11) 木下秀明編著, 能勢修一・木村吉次共著『体育・スポーツ書解題』 不昧堂出版 1981年 P.83.
- 12) Gt.Brit., Board of Education, *The Code of Minutes for Public Elementary Schools, 1906*, London: HMSO, 1906.
- 13) Gt.Brit., Board of Education, *Report of the Board of Education, 1906-07*, HMSO: London. 1907.
- 14) Gt.Brit., Board of Education, *Annual Report of the Chief Medical Officers for 1920, 1921* HMSO: London.
- 15) Gt.Brit., Board of Education, *Report of the Departmental Committee on Playgrounds*, HMSO: London, 1912.
- 16) Gt.Brit., Board of Education, *Rules to be observed in planning and fitting up public elementary schools*, HMSO: London, 1914.
- 17) Gt.Brit., Board of Education, *Regulations for Evening Play Centres*, HMSO: London, 1917.
- 18) *Ibid.*, P.2.
- 19) *Op.cit.*, Gt.Brit., Board of Education, *Syllabus of Physical Exercises for Schools, 1919*, PP.129-212.
- 20) Document Title, 'Newman, Sir George' in; A & C Black and Oxford University Press, *WHO'S WHO 1897-1998*, London, 1998. CD-ROM Version.
- 21) *Op. cit.*, Gt. Brit., Board of Education, *Syllabus of Physical Exercises for Schods. 1919*. P. 3 .
- 22) *Ibid.*, P. 3 .
- 23) *Ibid.*, P. 3 .
- 24) *Ibid.*, PP. 3-4.
- 25) *Ibid.*, P. 4 .
- 26) *Ibid.*, P. 4 .
- 27) *Ibid.*, P. 4 .
- 28) *Ibid.*, PP. 4-5.
- 29) *Ibid.*, P. 5 .
- 30) *Op.cit.*, Gt.Brit., Board of Education, *Suggestion in regard to Games*, 1920, HMSO: London. *Ibid.*, P.6.
- 31) *Ibid.*, P. 6 .
- 32) *Ibid.*, P. 6 .
- 33) *Ibid.*, P. 6 .
- 34) *Ibid.*, P. 6 .
- 35) *Ibid.*, PP. 6-7.

- 36) *Ibid.*, P. 7 .
- 37) *Ibid.*, P. 7 .
- 38) *Ibid.*, P. 7 .
- 39) *Ibid.*, PP. 7-8.
- 40) *Ibid.*, P. 8 .
- 41) *Ibid.*, P. 8 .
- 42) *Ibid.*, P. 8 .
- 43) *Ibid.*, P. 9 .
- 44) *Op.cit.*, Gt.Brit., Board of Education,  
*Syllabus of Physical Exercises for Schools,*  
*1919*, HMSO :London, PP.84-85.
- 45) *Ibid.*, P.84.
- 46) *Ibid.*, P.84.
- 47) *Ibid.*, P.84.
- 48) *Ibid.*, P.92.
- 49) *Ibid.*, PP.92-93.
- 50) *Ibid.*, P.85.
- 51) *Ibid.*, P.85.
- 52) *Ibid.*, P.85.
- 53) *Ibid.*, P.85.
- 54) *Ibid.*, P.85.
- 55) *Ibid.*, P.85.

表1. 『1909年のシラバス』にみるゲーム活動

走運動の遊戯(Running Games)	邦訳	『1909年のシラバス』にみるゲーム	『1920年の『サジェスジョン』にみるゲーム	『1919年のシラバス』にみるゲーム
(Fill the Gap/ or Running the Circle) (Cat and Mouse/ or Rat) (Toss and Threes) (Fox and Geese) (Borrow a Light) (Hawk and Doves)	空所補充 猫と鼠 二人眾と三人眾 狸とがらう 灯りを借ろう 鹿と鳩	1. I saw 2. Trains and stations, Shuntion carriages, etc. 3. The sea and her children, with homes for the fishes 4. First or last one still * 5. Musical flop [Musical bumps] 6. Jumping the stream [Jump the brook] [Crossing the brook] 7. Fire on the mountain [Oid one out] 8. Birds come home [Hawk and doves] [Sheep, sheep, come home] [Moonlight, starlight Giant Seaman] [Blackman] 9. Pop goes the weasel * 10. Musical arms [Musical chairs] * [Musical sticks] [Going to Jerusalem] 11. Obstacle scramble * desks, chairs, forms, stools	1. Imitative Play * Animal : Birds, cats, kangaroos, rabbits, sheep, etc. 2. Chasing leader * 3. Hunter and dogs [Animal hunt] [The hunt] 4. Twelve o'clock at night 5. Stone [Crouch and run] 6. Pebbles on the shore [Pebbles] 7. Touch hands and run 8. Fishes in the net 9. First to pick up ball * 10. All trying to kick ball * 11. Bogy ball *	『1919年のシラバス』にみるゲーム 1. Imitative Play * Animal : Birds, cats, kangaroos, rabbits, sheep, etc. 2. Chasing leader * 3. Hunter and dogs [Animal hunt] [The hunt] 4. Twelve o'clock at night 5. Stone [Crouch and run] 6. Pebbles on the shore [Pebbles] 7. Touch hands and run 8. Fishes in the net 9. First to pick up ball * 10. All trying to kick ball * 11. Bogy ball *
跳躍の遊戯(Jumping Games) (Stepping Stones) (Jumping the Swinging Rope) (Leap Frog) ボール運動の遊戯(Ball Games) (Out and In) (Chase Ball) (Chase Ball in a Ring) (Chase Ball in Two Lines) (Rolling Chase Ball) (Tower Ball) 種々の遊戯(Miscellaneous Games) (French Blind Man's Buff) (Nine Pins)	石の飛び廻し 振られている繩の飛び廻し 蛙跳び はずれるか、入ったか チェース・ボール 円陣でのチェース・ボール 二列でのチェース・ボール ローリング・チェイス・ボール タワー・ボール フランス鬼ごっこ 9つのピン	1. 私を影た 2. 火車と停車場、列車駆働 海と子ども、 魚と家を持つたて 動物又は陸生の者は別に 菜園に合せてバグバタ 小栗遊戯 山上の火事 鳥の卵宅、鹿と鳩 羊と鳩れ 舟先、並舟、巨人水夫 風人 測風 音楽の歌、音楽の椅子 音楽の棒、エルサレム行き 障害物、机、椅子、 長椅子座敷付	1. Imitative Play * Animal : Birds, cats, kangaroos, rabbits, sheep, etc. 2. Chasing leader * 3. Hunter and dogs [Animal hunt] [The hunt] 4. Twelve o'clock at night 5. Stone [Crouch and run] 6. Pebbles on the shore [Pebbles] 7. Touch hands and run 8. Fishes in the net 9. First to pick up ball * 10. All trying to kick ball * 11. Bogy ball *	『1919年のシラバス』にみるゲーム 1. 私を影た 2. 火車と停車場、列車駆働 海と子ども、 魚と家を持つたて 動物又は陸生の者は別に 菜園に合せてバグバタ 小栗遊戯 山上の火事 鳥の卵宅、鹿と鳩 羊と鳩れ 舟先、並舟、巨人水夫 風人 測風 音楽の歌、音楽の椅子 音楽の棒、エルサレム行き 障害物、机、椅子、 長椅子座敷付

表2. 『1919年のシラバス』にみるゲーム活動—児童の年齢がおおよそ5歳から7歳—  
( \* のついているゲームは、1920年の『サジェスジョン』に掲載されているものである。)

III — 若い天候の際のゲーム活動	『1919年のシラバス』にみるゲーム	『1920年の『サジェスジョン』にみるゲーム	『1919年のシラバス』にみるゲーム
1. Bouncing balls * [Jumping on spot with turning] 2. Making a big noise * [running and stamping on spot and clapping hands or thighs] 3. Follow my leader * 4. Group leading * [Steer the ship] 5. Skipping, running, stamping and clapping every 8th step(7th, 6th, etc) 6. Jumping, both feet apart(high and long) followed by three quick jumps. Add clapping and very the number of jumps 7. Two circles. Jumping(eight, seven, six, five jumps) alternately 8. Simple dancing steps.	バウンディングボール [転向を持ってその]集舞踏 大声発声[断足、其端強足踏、拍手又は]打鼓 我が後導に従へ 一團隊頭[船の舵取] スキップ、断足、強足踏、第八歩(第七歩又は第六歩)に拍手 跳躍舞踏(高く高く)第三歩強足踏、拍手、転向を行ひて跳躍数を減へよ 二重円陣或五跳躍(八七六、跳躍) 簡易なる舞踏歩	1. Imitative play * Sheep follow along one line Tortoise, very slow going on all fours 2. Small trail/or Maze 3. Changing circles, * numbers or partners, or Seats or circles or, [Bases] 4. Tom Tiddler [Gardener and Scamps] 5. Hound and rabbit [Fox and hound] 6. Sculptor 7. ones and twos 8. All out of desks, race for home 9. Fill up the gap 10. Hide and seek 11. Wool ball game Throwing and tossing free 12. Pushing against a bar or wall 13. Pulling in a circle, all hold rope 14. Rolling on grass or in gymnasium 15. Skipping(simple) 16. Lifting and carrying forms	『1919年のシラバス』にみるゲーム 1. Imitative play * Sheep follow along one line Tortoise, very slow going on all fours 2. Small trail/or Maze 3. Changing circles, * numbers or partners, or Seats or circles or, [Bases] 4. Tom Tiddler [Gardener and Scamps] 5. Hound and rabbit [Fox and hound] 6. Sculptor 7. ones and twos 8. All out of desks, race for home 9. Fill up the gap 10. Hide and seek 11. Wool ball game Throwing and tossing free 12. Pushing against a bar or wall 13. Pulling in a circle, all hold rope 14. Rolling on grass or in gymnasium 15. Skipping(simple) 16. Lifting and carrying forms
IV — 戸上での姿勢をほとんど変化させない運動	1. Imitative play * (a) Animals Horse trotting on spot (b) Birds. Storks sleeping on one leg Dicky bird hop-both feet. R. or L. (c) Fishes swimming (d) Occupations and machines Digging, sweeping, harrowing Aeroplanes, windmills Jack-in-the-box 3. Slap Jack * [Slap catch] [Lobsters] 4. Good morning (recognising voice) 5. Darby and Joan [Jacob and Rachel] 6. Cat and mouse 7. Drop the hankerchief [I sent a letter] 8. Sitting. Keep ball moving (a) in rows (b) in circle 9. Sitting Hunt the bean bag Hunt the slipper 10. Toss ball * [Circle ball] [bean bag catching] 11. Circle bean bag(simple form) [Chase ball] [Round ball]	1. 模倣遊戯の馬馬の手足、 (b)鳥、ここのりの手足懸垂、両足懸垂 ホップ、飛脚(其端強足) (c)魚の泳法、 (d) 勢竹及器械土塵、掃除、打鼓、飛行機、風車、船の中のジャック 円陣の期間及び転向 ジャック打草打[ザラ舞] おはよう 仲良き老夫妻 猫と鼠 ハンケチ落とし(私は手紙を出した) 差して袋を続けて動かす(a)横隊 (b)円陣 坐勢 豆袋探し 豆袋探し スリッパ 機上ボール(円陣ボール)[豆袋取り] 円陣豆袋(簡単なるもの)、 [跳び、球置]	『1919年のシラバス』にみるゲーム 1. Imitative play * Sheep follow along one line Tortoise, very slow going on all fours 2. Small trail/or Maze 3. Changing circles, * numbers or partners, or Seats or circles or, [Bases] 4. Tom Tiddler [Gardener and Scamps] 5. Hound and rabbit [Fox and hound] 6. Sculptor 7. ones and twos 8. All out of desks, race for home 9. Fill up the gap 10. Hide and seek 11. Wool ball game Throwing and tossing free 12. Pushing against a bar or wall 13. Pulling in a circle, all hold rope 14. Rolling on grass or in gymnasium 15. Skipping(simple) 16. Lifting and carrying forms

表3. 『1919年のシラバス』にみるゲーム活動—児童の年齢がおおよそ8歳から10歳—

I. 活動場所が限られている場合の活動的なゲーム	II. 自由で場所が制限がない場合の活動的なゲーム	III. 果ては実生活の類のゲーム活動	『学校に於ける身体訓練』にみる取次
12. Signals [Crust and Crumbs] [Black and white] [Day and night] [Oyster shell] 13. Ninepins 14. Circle race * [Chasing E.C.T.] [Running, reversing circle] 15. Number race [Running numbers] [Like number run] 16. In and out the files * [Spiral] 17. Tug-of-war * [Pulling contests] [Pushing] 18. Chalk line or Ladder jumps 19. Relay races. (a) Flag race with variations (b) Foatou or stone (c) All up [Moving clubs and Indian club race] 20. Apparatus, scrambling, obstacle runs 21. Dodge bean bag * [Dodge ball] [Dodge Football] 22. Jumping and skipping rope games *	12. Black Peter [Black Tom] [Staggy Rover] 13. Tag or touch * Ordinary Coross * [Cross tick] Goal Dare base Hopping * 14. Catch of fish 15. Races * Running, hopping, skipping step, etc. 16. Free and caught * 17. French tag * [Japanese tag] 18. Chain touch [French tag] 19. Bean Bag touch * 20. Pig in the middle 21. Ball stand [Stand Ho!] [Calling names]	9. Maze- Running, hopping, jumping 10. File races * Variation, all starting together (a) Double jump (b) Spring sitting 11. Clap in front and behind, tap with foot forward and backward 12. Simple Reel, Fling and Morris steps 13. Giant stride * [Long stride running] 14. Skipping step, grand chain or fig. Of 8 in file formation 15. Changing across two or more file with double jumps (or single) 16. Covering distance in a given number of jumps 17. Jump the shot [Jump the bag] 18. racing rolling ball * or Begey Ball 19. Running circle catch *	迷路 瓶足、ホッピング、跳躍 縦線跳走 変化、全体同時出発 (a) 二重跳躍 (b) 跳坐 体前後拍手、足尖にて前後にて打地 簡單なる跳歩、跳歩 器用(大跳躍足) スキッピングステップ、大跳躍又は縦線に於ける八字形 二重跳躍、以て二縦線以上の横過変換 与へられたる跳躍数による距離の取り方 球足跳躍(跳躍器) 球転がし跳走、化物ボール 瓶足円陣取

表4-1. 児童の年齢がおおよそ11歳及びそれ以上

IV. 床での姿勢をほとんど変えさせない運動	V. 活動量が少ない運動	VI. 活動場所が限られている場合の活動的なゲーム	『学校に於ける身体訓練』にみる取次
12. Command dodging (Competition between files) 13. Grocery stores [First and last letter] [Bird apprentice] 14. Do this, do that 15. Steps [Step] 16. Wandering ball * [Centre catch ball] [Circle catch ball] 17. Guess ball 18. Teacher and class * [Toss ball] 19. Passing race 20. Zig-zag bean bag 21. Chase ball with variations [Circle ball Round ball] 22. Marbles 23. Five stones 24. Broken bottles 25. Ten trips * 26. Courier (a) Bouncing (b) Throwing * 27. Jumping Race on spot (astride and together in succession)	17. Postman [Beat your neighbour] 18. Blind man's buff Three or more steps limit 19. Stepping stones * 20. Line tag [In and out] [Maze tag] [Cat and mouse] [Lanes] [Fishes in a net] 21. Twos and threes [Three deep] [Third man] 22. Last couple out [Last couple forward or run] [Widower] 23. Centre base 24. Hopsotch 25. "Conquerer" * 26. Snatch the handkerchief [Two dogs and a bone] [The golden fleece] 27. Drop ball * [Catch ball] [catching out] 28. Circle stride ball [Stride ball] 29. Bean bag and ball, long distance [throwing and catching practice] 30. Aiming contests * 31. Tower ball (wicket) 32. Circle cricket [French centre cricket]	23. King of the ring * [Master of the ring] 24. Long jump- Single start Double start Hopping on the leg 25. Poison * [Pull over the club] [Knock the man down] [Cushion dance] [Push Basket] 26. In and out the file * [Advanced variations] 27. Chalk line or ladder jump * [Advanced variations] 28. Relay races [Leap frog] [Squat] [Tunnel] 29. Over and under leap frog * 30. Horses and riders [Jockeys and forses] 31. Circle football touch [Kicking] 32. Jumping- [High, Long, Off both feet] 33. Living targets [Bean bag] 34. Line football [Hand football] 35. Captain Ball * 36. Jumping and skipping (Advanced variations) *	指揮の王(指揮の主人) 幅跳 片足跳足 両足跳足 片足跳 毒(棒引) [袋を掴み投せ][クッションダンス] [バスケット押し] 縦列出入[程度高き変化] 白筆線又は線形 [程度の進みたる変化] リレーレース(縦線及び陣壘)[トンネル] 上及下跳躍 馬と騎手[騎馬師と馬] 円陣フットボールタッチ 跳躍 [高跳、幅跳、両足を踏す] 生きた的(尺童) ラインフットボール(ハンドフットボール) キャプテンボール 跳躍及スキッピング(高度変化)

表4-2. 『1919年のシラバス』にみるゲーム活動—児童の年齢がおおよそ11歳及びそれ以上—

IV — 自由で場所に関係がない場合の活動的なゲーム	III — 狭い実験のゲーム活動	II — 自由で場所に関係がない場合の活動的なゲーム	I — 自由で場所に関係がない場合の活動的なゲーム
22. Prisoners' Base [Release] [Relieve] 23. Tag or Touch * (a) Running twos and threes [Double tag] Goal Dave base Hopping * [Partner tag] [Partners] (b) Double jump * [Kangaroo] (c) [Hands joined *] 24. Races * [Rabbit jump] [Sideways] [Backwards, etc.] 25. French and English [Seizing sticks, or Scotch and English] [Stealing sticks] 26. Ball touch * [Football touch] 27. Bobbardment * [Highexplosives] 28. Indoor basket ball (Active summer games) 29. Rounders 30. Tip and run	20. Combined jumps with arm stretching and swinging 21. Variations of running and marching with hand-clapping, stamping and marking of the step 22. Time race or running jump * 23. Scotch steps in series 24. Morris jig steps 25. Team passing * (a) bean bag or (b) Football or (c) Small ball	25. Clapping and stepping or jumping every note of a well-known tune on the spot 29. Tricky introduction of clapping, stamping or turning in jumping, dancing steps, etc. on the spot 30. In and out and hopping variation of Fill up the gap 31. Target bean bag [Target toss] [Bean bag target] 32. Circle pass ball * 33. Courier * [Cricket ball] [Football] [Rolling football] 34. Ball throwing and catching contests * (a) Throwing up and catching, right, left, and both hands (b) Bouncing ball and catching (c) Catching and throwing two ball (d) Alternate right and left	20. Combined jumps with arm stretching and swinging 21. Variations of running and marching with hand-clapping, stamping and marking of the step 22. Time race or running jump * 23. Scotch steps in series 24. Morris jig steps 25. Team passing * (a) bean bag or (b) Football or (c) Small ball

表5. 上級のプレーヤーのためのゲーム活動

V — 活動量が少ない運動	IV — 自由で場所に関係がない場合の活動的なゲーム	III — 狭い実験のゲーム活動	II — 自由で場所に関係がない場合の活動的なゲーム	I — 自由で場所に関係がない場合の活動的なゲーム
33. Twos and threes [facing variation] 34. Walla * (active under certain conditions) 35. Bag tag 36. Time ball 37. Arch bean bag or ball [Hurly-burly] [Rolling chase ball] [Bean bags] 38. Arch and tunnel ball * [Over and under] (a) Hockey stick and ball (b) Football (kicking) 40. Relay hopscootch 41. Stool ball [English stool ball] 42. End ball	37. Tossing down the lines 38. Pickback race 39. Tug-of-war * 40. Gymnastic play movements [Physical Exercises as games for Seniors] 41. Drizzling the ball relay [Hockey Football] 42. Bouncing ball relay 43. Circle bounce ball * 44. Fives, wall or roof game [Gable or end wall volley] 45. Pirates 46. Gymnastic apparatus relay 47. Progressive tennis	35. Jumping the hands * 36. Bladder tag [“Ely for your life”] [Beetle goes round] [Whip tag] 37. Moving target * 38. Circle bowls 39. Curling 40. Ball catching contests * (advances) In pairs 1. Using one or two balls, right and left hands (a) Pat-bouncing across (b) Backball 2. Using three balls 3. Using four balls Single 1. Alternate and double backball 2. up nad up (two balls in one hand) 3. Three and four balls	31. Three-legged tag * 32. Spring sitting tag * [Birds and cats *] 33. Athletic Sports 34. Indoor football (tennis ball) 35. Hand tennis 36. Team bounce ball *	31. Three-legged tag * 32. Spring sitting tag * [Birds and cats *] 33. Athletic Sports 34. Indoor football (tennis ball) 35. Hand tennis 36. Team bounce ball *

III — 狭い実験のゲーム活動	IV — 自由で場所に関係がない場合の活動的なゲーム	V — 活動量が少ない運動
26. Hopping football * (tree) 27. Rugby touch ball	35. Jumping the hands * 36. Bladder tag [“Ely for your life”] [Beetle goes round] [Whip tag] 37. Moving target * 38. Circle bowls 39. Curling 40. Ball catching contests * (advances) In pairs 1. Using one or two balls, right and left hands (a) Pat-bouncing across (b) Backball 2. Using three balls 3. Using four balls Single 1. Alternate and double backball 2. up nad up (two balls in one hand) 3. Three and four balls	43. Net ball shooting competition 44. Aiming contests * 45. Pat-bouncing hopscootch 46. Newcombe 47. Volley ball * 48. Bowling at stump competition 49. Throwing cricket ball competition

